

1 内政

ファルカム元大統領が死去

１２日、レオ・ファルカム・ミクロネシア連邦第５代大統領（任期：１９９９－２００３）が死去した。８２歳。クリスチャン大統領は国喪を宣言し、半旗が掲げられた。１６日、自宅があるウー地区の教会にて国葬が執り行われた。（２月２６日付 カセリエプレス紙）

８日間行方不明だったチューク州の漁船を米海軍が救助

２０日、１２日から行方不明だったチューク州の漁船をグアム所属の米海軍が無事救助した。当初米沿岸警備隊に連絡が入り数日間救助活動を行ったが、その後、グアムの米海軍に支援要請があり、８人の乗組員からなる VP 8 Fighting Tigers と名付けられたチームによる空からの搜索で漁船の場所を特定し、今回の救助に至った。報告によれば同漁船は食料と水は積んでいたものの、無線機やラジオなどの安全にかかわる装置は積んでいなかった模様。（２月２６日付 カセリエプレス紙）

ポンペイ州内の魚市場でバクテリアが検出

昨年１１月、ポンペイ州政府と連邦政府の協力により、Kevin Rohdes 医師がポンペイ内の５か所の魚市場で検査を行ったところ、２か所を除き、人体に悪影響を及ぼすバクテリアやウイルス等が検出された。市場を含む周辺の不衛生な環境や魚の保存のための冷凍施設の不備などが要因と指摘されている。州環境局はこうした定期的な検査の実施を義務付けられているものの、今回の調査に参加しなかった。（２月２６日付 カセリエプレス紙）

エリモ州知事の辞任を求める決議がチューク州議会に提出される

２７日に開催された特別会期にてエリモ州知事の辞任を求める決議が連邦議会下院に提出された。右決議は４月に開催予定の州議会で検討される予定。今回の決議の提出理由の一つは、最高裁がエリモ知事に対して出した同知事の CPUC(チューク電力公社)への違法な干渉を止めるようにとの命令にエリモ知事が従っていないためである。エリモ知事は最高裁の命令を無視して、州知事の権限によって CPUC の暫定理事会のメンバーを任命した。州知事は裁判所の決定再考を求める意見を裁判所に

提出しヒアリングが始められたが、州知事側の事情により現在ヒアリングは延期されている。2018年1月、エリモ州知事は CPUC の利益に反して、10百万ドルのローン保証をケイマン諸島に登録されているあまり聞いたことがない Earth Energy International 社に対して行うべく、エリモ知事が中心となって暫定理事会メンバーを選定し、陰謀を計画していたと非難されている。決議案は、エリモ知事の行為は汚職につながる不透明かつチューク州民の利益を損なうもので違法なものであると主張している。また、同決議によれば、また州知事はウエノ島の Mechitiw 及び Tunnk 村の道路補修に関し、州議会に対する書面による会計報告を怠っており、右はチューク州憲法4b6条の違反であり、かかる州知事の行為は不作為、怠慢、汚職であると非難している。

(3月12日付 カセリエプレス紙)

Vital FSM とポンペイ州消防・緊急サービス当局間で合意

20日、Vital FSM 石油公社 (FSMPC) とポンペイ州消防・緊急サービス当局 (DFES) は、市民の健康や安全のための予防措置等のために必要な情報交換や措置を協力して行っていく旨合意し、ピーターソン州知事立会いの下、FSMPC のモリス公社長とカンテロ DFES 局長の間で MOU が署名された。署名の際、FSMPC から消防士用の10組のジャケット他が寄贈された。

(3月6日付 カセリエプレス紙)

ピーターソン・ポンペイ州知事、州議会で施政方針演説

6日、ピーターソン州知事は州議会初日に州政府の農業、教育、環境、漁業、健康、インフラ整備、治安、観光の主要セクターに関する取り組みや今後の施政方針に関する演説を行った。

(3月6日付 カセリエプレス紙)

2 外交

特になし

3 経済

特になし

4 経済協力

ADBの支援による風力発電機の完成式(ヤップ州)

ヤップ州で3機の巨大風力発電機の完成を祝う式典が行われた。2013年に承認された当該プロジェクトはアジア開発銀行(ADB)から2件合計で9百万ドルのローンを

借り入れて実施され、3機の巨大風力発電機の他に政府機関の屋根に新たにソーラーパネルや古いディーゼル発電機に変わって省エネのディーゼル発電機も導入された。現状、FSMIは電気供給の多くをディーゼル発電に頼っており(ヤップ州は全体の97%)、その価格は石油価格の変動に大きく影響を受けている。そのため、FSMIは2020年までに30%を、2030年までに電気供給の50%を再生可能エネルギーで賄おうと計画している。ADBによると、今回完成した風力・太陽光発電機により現在の供給の11%が風力発電で、6%が太陽光発電で賄える事になるという。また、ディーゼル発電機も効率が良くなるため、全体で現在のディーゼル発電での供給のうち17%程度が今回のプロジェクトにより導入された発電機によって賄われるという。式典にはクリスチャン大統領、ギャニヤン・ヤップ州知事等が出席し、ADB等のドナーに対し感謝の意を述べた。

(2月14日付 カセレリエプレス紙)

米海軍設営隊、チューク高校の教室建設を開始

2018年2月27日、チューク高校で2つの教室を建設するための着工式が開催された。式典にはライリー米大使やエンレット・チューク州教育局長らが出席した。ライリー米大使は地元の労働者には、設営隊と密接に協力してプロジェクトを進め、建設技術を学んで欲しい、と述べた。教室は7月28日に完成する予定。

(2月28日付 カセレリエプレス紙)

5 文化・教育

国際婦人の日を祝う行事がポンペイで開催

8日、国際婦人の日を祝う記念行事がポンペイ州コロニア地区の PICS 高校で行われ、参加した21の婦人団体による奨学金集めのための各種チャリティ販売等が盛大に行われた。

(2月28日付 カセレリエプレス紙)

ジャパンフェスティバルが開催

17日、ジャパンフェスティバルがOLM高校の体育館で開催され多くの客が浴衣の試着、折り紙、習字等の日本文化に触れあった。今回のフェスティバルには仙台育英高校の和太鼓クラブが出演し、ひょっとこや獅子舞も登場し、日本の伝統文化を観客は大いに楽しんだ。また、仙台育英高校は今回の訪問をとらえ、ロータリークラブの仲立ちにより、ポンペイ州教育局との間で学生交流に関わるMOUを締結した。

(2月26日付 カセレリエプレス紙)